平成2９年度事業報告

一、法人全体

平成29年度は法人として以下の事業を運営しました。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 事業種目 | 施設名称 | 定員（人） | 所在地（大分市） |
| 就労継続支援Ｂ型 | マルシェ | ５９ | 下戸次125３番 |
| 就労移行支援 | ６ | 下戸次1253番 |
| 共同生活援助 | グランディール寒田Ⅰ | ７ | 寒田２３９－１ |
| グランディール寒田Ⅱ | ７ | 寒田２３９－１ |
| グランディール敷戸 | ７ | 敷戸南１９番１号 |
| 短期入所 | グランディール敷戸 | １ | 敷戸南１９番１号 |
| 放課後等デイサービス | プレジール | １０ | 田尻1380番地39 |
| 特定計画相談支援 | リュミエール | － | 下戸次1253番 |
| 障害児相談支援 | － | 下戸次1253番 |
| 日中一時支援 | エスポワール | １０ | 下戸次1253番 |
| 合計 |  | １０７ |  |

法人全体の重要な報告事項は次のとおりです。

1. 社会福祉法人制度改革に基づく運営をすすめました。

　　１）新規程により評議員、理事、監事を選任し、評議員会、理事会を開催してきまし

た。

　　２）福祉充実残額の計算の結果、非該当となりました。

　　３）地域公益活動として大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会に参加し、生活

困窮者等に対する相談支援事業（「おおいた“くらしサポート”事業」）を支えて

きました。

1. マルシェの新規利用希望者の方が多く、現行定員の枠では受入困難となる見通しになったため、就労継続支援Ｂ型の定員を現行の59人から15人増加して74人に変更する変更申請を大分市に行い許可を得ました。

１）平成30年4月より就労継続支援Ｂ型は定員74人、就労移行支援は現行通り定員６人、多機能型合計80人となります。

　　２）大分市内の支援学校高等部の生徒数は増大しており、今後とも利用希望者は増える可能性が高く、事業種目（就労継続支援A型・B型、生活介護など）や施設整備（土地の確保、施設整備）について将来計画を検討する必要があります。

（３）経営の改善に取組みました。

　　１）平成28年度は施設整備に伴う自己資金の投下が相次ぎ、収支構造がタイトになり

　　　　ましたので29年度は緊縮財政に徹し、収支の改善をはかりました。

　　２）一方で福祉分野は人材確保がますます厳しい情勢となっており、人材の定着・育成のためには処遇改善を進める経営力の強化が喫緊の課題です。

　　３）平成30年度の報酬改定の方向性が3月に明示されましたが殆どの事業で単価が下がる見込みであり、とくに支援度の高い利用者をしっかり受入れようとする事業所には厳しい経営環境となることが懸念されます。

（４）「非常災害対策計画」の策定など安心・安全対策をより一層進めました。

　　１）水害時の避難遅れによるグループホームの死亡事故の発生を受けて水害・地震・

火災等の非常災害時の避難対策・手順を各施設の立地に応じたものとして策定し

ました。

　　２）最も浸水被害のリスクの高いマルシェ（下戸次）では天心堂へつぎ病院のご協力を得て水害時の緊急避難先として避難訓練を実施しました。

（５）研修による職員の職務能力向上と委員会活動を進めました。

　　１）法人内部研修会を毎月開催し、外部研修にも積極的に参加しました。

　　2）職員参加による委員会活動を展開してきました。

　　　　　虐待防止委員会

　　　　　広報委員会

　　　　　給食委員会

　　　　　夏祭り・年末懇親会委員会

　　　　　旅行委員会

　　　　　防災・感染症対策委員会

　　　　　ヒヤリハット委員会

（６）施設長・管理者の世代交代の準備に入りました。

　　１）平成31年度～33年度で各事業所の管理者を若い世代に交代していくことを確認

　しました。

　　２）今後次の世代の育成と引継ぎに入っていきます。

二、各事業

（１）多機能型就労支援事業「マルシェ」の事業

　　１）就労継続支援Ｂ型事業（定員59人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ２8年度 | 29年度 |
| 開所日数 | 254日 | 255日 |
| 利用者延日数 | 13,301日 | 14,070日 |
| 月平均利用登録者数 | 62.4人 | 66.2人 |
| １日平均利用者数 | 52.4人 | 55.2人 |
| 平均通所率 | 84.0％ | 83.4％ |
| 作業収入（売上） | 17,401,451円 | 16,104,406円 |
| 月額平均工賃 | 14,495円 | 12,791円 |

１　Ｂ型からの就労はありませんでした。

　　　２　職員体制としては目標工賃達成指導員配置加算（利用者対比6:1以上の職員配

置）を算定しています.。

　　　３　作業としてパン部門、クッキー部門、メンテナンス部門、リサイクル部門、軽

　　作業部門、農業部門があります。野菜作り・加工作業に参加される方も増えました。共同受注事務局（事務局：太陽の家）を経由した受託作業（ＪＡの包装作業・お墓の清掃・しめ飾り作りなど）などにも取組み、作業の充実をはかりました。しかし売上が販路縮小により低減し利用者数が増えたことで平均工賃が下がりました。工賃向上が大きな課題です。野菜の店舗卸ルートでの販路拡大や作業チームの再編成などに取組んでいます。

　　　４　定員は59人ですが30年３月では56.0人になっており、新卒等による30年度の利用者は59人を超過する見込みです。そこで大分市と協議し30年度は定員を15人増やして74人とする承認を得ています

　　　５、知的障害の方が多数を構成しますが、精神障害・発達障害の方も増えており、心身の不調により通所率や作業参加率が低下傾向にあります。一人ひとりにとってのモチベーション向上に努めています。

　２）就労移行支援事業（定員６人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ２８年度 | 29年度 |
| 開所日数 | 254日 | 255日 |
| 利用者延日数 | 1,364日 | 1,286日 |
| 月平均利用登録者数 | 6.2人 | 6.6人 |
| 1日平均利用者数 | 5.4人 | 5.6人 |
| 平均通所率 | 87.1％ | 84.8％ |
| 作業収入（売上） | 679,518円 | 6,25,400円 |

１　就労移行支援からは就労は1人でしたが残念ながら継続定着できませんでした。30年4月にも1人就労が決定しています。

２　支援学校高等部３年生の就労アセスメントを3名実施しました。

３　日常作業としてはパンの販売を行い、就労に向けてＰＣ入力訓練、面接練習、

企業実習に取組みました。就労後も定期的に職場訪問しアフターフォローに力

を入れました。

　　　４　新卒・中途利用を含めてＢ型に利用希望が集中しており30年度の就労移行支援事業利用者の見込みが不透明で、半年以上の就労定着者率が低い場合は支援費報酬が大幅に下落する報酬改定となる見込みとなったため、事業的に成立するかどうか判断が求められましたが、就労への取り組みを強化するため就労移行支援事業を継続することにしました。より能動的な利用者確保と就労支援に取組みたいと考えています。

（２）グループホーム（共同生活援助）「グランディール寒田」の事業（定員21人）

　　　グランディール寒田は住居が３つありグランディールⅠ・Ⅱとグランディール敷戸

に区分され各定員が7人（計21人）となっています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 28度 | 29年度 |
| 開所日数 | 365日 | 365日 |
| 利用者延日数 | 5,702日 | 6,174日 |
| 月平均利用登録者数 | 13.7人 | 19.3人 |
| 1日平均利用者数 | 15.7人 | 16.9人 |

外泊（帰省・入院等）は利用日に算定されません。

１　グランディール寒田では世話人配置基準の4:1基準を採用し、より多くの人員

配置をして支援をしています。世話人は主として食事の提供、居室以外の清掃・環境整備を担当しています。

　　　２　障害支援区分３以上の方には世話人と別に生活支援員が配置されています。生

活支援員は通院介助、買い物等の外出支援、入浴・排泄等の日常生活における

介助、健康・衛生支援、金銭管理支援、就労先・通所先との連携、相談支援な

どの生活全般の支援を担当しています。区分3以下の利用者でも発達障がいや

精神障害の利用者には配置基準を超えて生活支援員を配置せざるを得ない（安全上の問題）です。

　　　３　夜間は宿直及び警備会社との業務委託契約で夜間支援を行っています。宿直は

法人全体の職員でローテーションを組んで担当していましたが、職員の負担が

大きいため宿直専用の非常勤スタッフを採用しました。また利用者の急病・不穏時など夜間緊急時で１人で対応できないときはオンコールシステム（夜間呼び出し待機制度）を組んでいます。

　　　４　グランディール敷戸ではグループホームに併設型の短期入所事業を開始しまし

たが、延べ利用者数52人（28年度39人）で年間利用日数は173日（28年度115日）と利用も広がりました。

（３）放課後等デイサービス「プレジール」の事業（定員10人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 28年度 | 29年度 |
| 開所日数 | 239日 | 240日 |
| 利用者延日数 | 2,263日 | 1,949日 |
| 月平均利用登録者数 | 15.9人 | 14.6人 |
| 1日平均利用者数 | 9.5人 | 8.1人 |

　　　１　利用者数については、平均で定員（10人）を下回ればいいとの解釈（行政現下）で運営していましたが、1日でも定員を超過してはならないとの監査での指導を受け、平均ではなく最高で10人となる運営に切り替えましたので大きく減少しています。

　　　２　支援学校・支援学級の放課後と学校の休日（夏休み等）の朝9時から夕方5時までのデイサービスを実施しています。学校―プレジール及び必要な方は自宅まで送迎を実施しています。

　　　３　自己肯定感・生活力・集団での適応力を高めることを目標に取組んでいます。対人関係が苦手な発達障がいの子どもたちにとって思春期前に楽しく充実した時間と人間関係をつくることは大きな意味があります。

　　　４　平成30年度から指導員は保育士・児童指導員などの専門資格者の配置が必要とされることになりましたので有資格者を配置しています。

　　　5　プレジールでも定期的に災害等の避難訓練を実施するようにしました。

（４）特定計画相談支援・障害児相談支援「リュミエール」の事業

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 28年度 | 29年度 |
| 利用等計画作成件数（年） | 113件 | 119件 |
| モニタリング件数（年） | 118件 | 133件 |
| 合計 | 231件 | 252件 |

　　　１　計画相談支援・障害児相談支援の事業も平成25年度に開設して５年目となり、

　　　　　計画相談件数も増加してきました。

　　　２　主な契約対象者はラポールの利用者ですが他の法人を利用されておられる方の

　　　　　計画作成・モニタリングも相当数あります。

　　　３　利用等計画は障害福祉サービスの利用に際して公正・中立の立場でニーズを把握し、適切なサービスの利用計画を組むことが求められています。関係機関との連携を密にし、専門性を高めて利用者のニーズに応えられるように努力して

　　　　　きました。

　　　４　相談支援専門員は１名体制ですのでかなりハードスケジュールになっています。

　　　　　兼務でもう1名の相談支援専門員を配置できるよう人材育成・研修受講をすすめることが必要です。

（５）日中一時支援「エスポワール」の事業（定員10人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 28年度 | 29年度 |
| 開所日数 | 240日 | 240日 |
| 定員 | 10人 | 10人 |
| 利用者延日数 | 1,823日 | 1,921日 |
| 1日平均利用者数 | 7.6日 | 8.0人 |

　　　１　日中一時支援事業は大分市・臼杵市との委託契約に基づく事業で、マルシェ（就労継続支援Ｂ型事業所）の作業後の時間・場所を活用できるという制度をもとに平成25年度から開始して５年目になります。

　　　２　利用希望者も増えましたので、26年度から定員を5人から10人に増やしています。29年度はさらに増えましたので職員体制が安定すれば定員増の検討も必要ですが、支援度の高い利用者の方が多いので慎重に検討したいと考えています。

　　　３　利用者の希望・事情に応じて送迎も実施しています。保護者が就労されていたり疾病等でケアが困難な場合に大変助かっていると評価されています。

　　　４　大分市に加えて臼杵市とも委託契約を締結し、臼杵市の方も利用されています。